

令和 5 年 6 月 8 日現在

機関番号：34310

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2021～2022

課題番号：21K20198

研究課題名(和文) 占領期沖縄の「島ぐるみ」土地闘争における抵抗主体の移動経験

研究課題名(英文) Experiences of residents in the 'island-wide' land struggle in Okinawa in 1950s

研究代表者

岡本 直美 (Okamoto, Naomi)

同志社大学・研究開発推進機構・助手

研究者番号：20906630

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,100,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、<土着>の抵抗と捉えられてきた土地闘争を、抵抗主体の移動経験から再検討する点である。沖縄の移民研究では、アイデンティティや移民・移動に関する研究が蓄積されてきた。さらに、地上戦を経験し歴史資料の大半を消失した沖縄では、地域住民のライフストーリーが歴史記録の根拠となってきた。そこで本研究では沖縄県伊江島の住民の戦前から米軍占領期にかけての移動のライフストーリーを調査し、伊江島が開拓地であるがゆえに伊江島土地闘争を定住者の視点からではなく、定住と移動がミックスされた土地であることを明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、沖縄の軍用地問題を定住者と移民者両方の視点から追究する点において、従来の沖縄に関わる移民史や地域史、土地闘争史、民衆史を架橋するものである。例えば、地域史では、地域から離れた人びとの歴史は残りにくく、一方で移民史では移住地に焦点を当てた研究が比較的多い。本研究では、軍用地問題に抵抗する土地闘争という、沖縄戦後史研究においてメジャーな課題を扱いながらも、従来の研究では分野ごとに分かれていた歴史的事実を、人びとのライフストーリーを通して繋ぐことで民衆史を深化させたといえるだろう。さらに、上記の課題は、研究の領域のみならず沖縄社会も大きな関心を持つものであり、社会的意義も持つものである。

研究成果の概要(英文)：This research aims to reexamine the struggle for land, which has been regarded as the resistance of <indigenous>, from the experience of the residents. Studies on immigration in Okinawa have accumulated research on identity, immigration and migration. Furthermore, in Okinawa, which experienced a ground battle and lost most of its historical records, the life histories of local residents have become the basis for historical records. Therefore, in this study, we investigated the life history of the migration of the residents of Ie Island, Okinawa Prefecture from before the war to the period of occupation by the U.S. military, and movement are mixed land.

研究分野：沖縄近現代史

キーワード：伊江島土地闘争 ライフストーリー 移民 移動 島ぐるみ闘争 沖縄戦後史

1. 研究開始当初の背景

本研究以前は、米軍統治下の沖縄で展開された、全沖縄的な反米軍基地闘争である「島ぐるみ」闘争に注目し、特に伊江島土地闘争に焦点を当てて、戦後沖縄の自治や自立に関して考察してきた。現地調査や資料調査を重ねるなかで、土地闘争者のライフヒストリーをたどると、越境的な経験やネットワークが闘争に影響を与えていることが分かった。そこで、本研究では、従来は「土着」の抵抗と捉えられてきた土地闘争を、闘争者の移動経験から再考察する必要性を認めた。

本研究では、占領期沖縄で展開した全沖縄的な反米軍基地闘争である「島ぐるみ」闘争（1956年）に注目し、該当期の抵抗主体の移動経験を通して土地闘争の実態解明を目指した。「島ぐるみ」闘争を焦点化することで、この出来事を沖縄の復帰運動の前史として沖縄の自治や自己決定を議論してきた沖縄戦後史を住民の生活空間から捉え返す必要があると考えた。

具体的な研究対象地として、「島ぐるみ」闘争の源流である「伊江島土地闘争」（沖縄県伊江島）を取り上げた。当運動は「土着」の農民による占領者への抵抗」という前提のもと住民自ら政治空間を構築した点が評価されてきたため、本研究では、従来土着性を前提に論じられてきた伊江島土地闘争を抵抗主体の移動経験から再検討し、土地闘争の生成過程を考察することにした。

2. 研究の目的

本研究の目的は、「土着」の抵抗と捉えられてきた土地闘争を、抵抗主体の移動経験から再検討することである。そして、人びとの流動性から土地闘争や「島ぐるみ」闘争を考察することで、自治や自決を希求する沖縄住民がいかに構成されてきたのかを解明することを目指した。

沖縄の移民研究では、アイデンティティや移民・移動に関する研究が蓄積されてきた。さらに、地上戦を経験し歴史資料の大半を消失した沖縄では、地域住民のライフヒストリーが歴史記録の根拠となってきた。このような背景に加え、伊江島の抵抗者は自身や家族が流動しつつ土地を守る存在だが、流動する人と土地を守る人との重なりから土地問題を考える研究はなされてこなかった。本研究は、移民史や地域史の視座を土地闘争史に応用し、人びとの移動経験から闘争の意義を解明することで、社会運動史に新たな視座を示すことを目指した。

戦後沖縄の土地闘争では、「農民」が生きるために団結した点が強調されてきた。しかし同時代の沖縄では、沖縄戦で焦土化し、米軍基地が建設されることで縮小した土地での食糧自給を目的として、琉球政府や米国民政府によって米国の近代的農業技術が導入された。それは、土地を接収されても農業生産が可能となる論理が為政者に準備される過程でもある。このように「農民」が一様でない点は、従来の土地闘争史では考慮されておらず独自性がある。したがって、農業継続と土地接収が一見共存可能な状況を踏まえて、伊江島「農民」の土地を守る動機を解明することは、従来の「農民 vs 米軍基地」という構図に新たな視座を与え、米国による沖縄文化戦略や農業政策のなかで沖縄の土地闘争史を考察することを目的とした。

3. 研究の方法

特に、伊江島土地闘争に関して、沖縄県立図書館や沖縄県公文書館にて資料収集を行い、運動資料とあわせて分析・考察を行った。伊江島土地闘争の中心である真謝区は、戦後に生まれた行政区であるが、同地の歴史の変遷をたどることで闘争者の歴史経験を検討した。伊江島の土地における歴史に関しては、特に伊江村史をはじめとした字誌を分析した。真謝区の字誌は発行されていないが、真謝区に隣接し、軍用地も存在する西崎区の字誌さらに、真謝区の母区である区の字誌には行政区としての歴史だけでなく住民たちの証言も掲載されていた。

伊江島土地闘争者の中には戦前に出稼ぎ移民、開拓の経験をした者も存在したため、沖縄の移民史研究のなかで比較検討した。土地闘争以前の移民・開拓経験が、闘争時に与えた影響や闘争の意義に関して、嘉手納基地爆音訴訟の原告のライフヒストリーを参考にし、「島ぐるみ」と呼ばれるほどの全沖縄的な反米軍基地闘争において、土地を守る動機や意義を考察した。

4. 研究成果

本研究は、従来「土着」の抵抗と捉えられてきた土地闘争を、闘争者の移動経験から再検討した。特に伊江島土地闘争に関して、闘争者が軍用地接収に反対した理由は、戦後の米軍占領による農地の縮小だけではなく、沖縄戦による疎開や徴用等によってそもそも生活の再建が困難で

あった点が挙げられる。そこからは、単に生活の糧を得るための土地という認識だけではなく、反戦平和の思想も土地に込められている点が浮かび上がる。さらに、これらの土地に対する思想が戦後に形成されたものではなく、戦前からの移民出稼ぎ、開拓など、戦前の時代状況があるからこそその思想であることを明らかにした。これらの研究成果の報告を、カルチュラルスタディーズ学会、日本移民学会等で報告した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 1件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 岡本直美	4. 巻 創刊号
2. 論文標題 「沖縄県伊江島の反戦平和資料館 「生きる」を軸とした記憶の場の形成」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 MFE 多焦点的拡張	6. 最初と最後の頁 --
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 岡本直美
2. 発表標題 「米軍統治下沖縄における伊江島土地闘争の再検討 開拓地・移動経験の視点から 」
3. 学会等名 カルチュラル・スタディーズ学会
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------